

長期的視点を見失わず、激変する社会情勢にも臨機応変に。

議員任期は最終年度に

2019年の市議選で市民の皆さまより議席を与った今期の議員任期も、いよいよ実質、最終年度となります。特定の政党や組織に属さず、紐づかない“完全無所属”の議員による政策チームとして、令和4年度も、たかばとくことと宮下しんごは「無所属クラブ」の名で引き続き、市民の生命と生業を守る政策提言に全力を注いでまいります。

令和4年度予算審査 無所属クラブの基本姿勢

3月定例会の開会前は、「まん延防止等重点措置」が継続されていた中で、第6波による感染者数が本市においても最多となるなど、コロナ禍における先行きはなお見通せない状況が続いていました。

無所属クラブは令和4年度の予算審査にあたり、コロナ禍を含む様々な状況の変遷を踏まえつつ、あれもこれも「できないから仕方ない」とするのはなく、今後の“ウィズコロナ社会”のあり方も見すえながら、「サステナブル健康都市おおぶ」の持続可能で発展的な姿をどう描くかという視点を、特に重視しました。

令和4年度一般会計予算 無所属クラブの賛成討論

まず、愛知県全体ではすでに人口動態が減少局面にある中、本市でも令和2年度から減少に転じ、最新の数字を見ても令和4年2月末の前年同月比でマイナス303人となっている点を踏まえ、単年度の予算編成にあたり一喜一憂すべきでない点は理解するとしつつも、まちの未来を左右するターニングポイントとなるか否かを慎重に判断するには経年的な注視が必要であり、それはまた、中心市街地の活性化を通じて、まちの魅力をどのように高めていくかという議論においても重要な指標となってくる旨、指摘をしました。

加えて、3月定例会の開会前には想定していなかったロシアのウクライナ侵略により、今後、資材の調達状況やコスト、その他の面での影響がどれほどのものになるかはいまだ不透明であることを念頭に、コロナ禍を含め、こうした現下の社会情勢から想定される様々な懸念にも柔軟に対応しつつ、持続可能で発展的な大府市のさらなる追求に向けた引き続きの尽力を求め、賛成討論としました。

(※委員会の予算審査は中面に掲載)

その他の議案に対する 無所属クラブの見解・意見

≪3月定例会≫

◆子ども医療費助成に関する条例の一部改正

・無償化の対象年齢を広げる議論が各地に展開されることで社会変革への一石となり、先行的な取組が“子育て応援都市”としての評価につながっていく点も施策として有意義である旨、賛成討論。

◆犯罪被害者等支援条例の制定

・犯罪被害者が市民に出ないことが最善であるが、その場合においても他自治体の事例等の情報収集に努めるよう、意見を付して賛成。

◆避難行動用支援者名簿に関する条例の一部改正

・名簿の作成を入口として、改めて顔の見える関係づくりにつながる効果を期待する旨、賛成討論。

≪3月臨時会≫

◆一般会計補正予算(第1号)

・「平和都市宣言」を掲げる本市の理念と人権尊重の観点から適切な提案であり、確実な事務の遂行、決断と行動の迅速性の両面で大いに評価する旨、賛成討論。



無所属クラブ 活動報告 Special



無所属クラブで大学生3名の議員インターンを受け入れ。

無所属クラブでは、2月と3月の2か月間、NPO法人ドットジェイピーの議員インターンとして、県内の大学生3名を受け入れました。

“30年後の日本一住みたいまち”を決める「未来自治体」にエントリーするプロジェクトづくりでは、実際に市内を歩いて感じたことをもとに、「ユニバーサルデザインのまちづくり」をテーマとして、大府市の30年後の未来に向けたアイデアを3人のチームで考え、本職の我々も舌を巻く見事な提案をつくりあげ

ました。南山大学で開催された愛知大会の本番では、「U.S.O(ユニバーサルで住みたくなるまち おおぶ)」と題し、「チームこのやまいも」としてプレゼンを行いました。

3月定例会では、本会議の質疑や討論だけでなく、一般質問や委員会での予算審査など、ほとんどすべての会議を傍聴してもらい、現場でのリアルな見聞を通じた“議員の仕事”に対する理解も、大いに深めていただけたものと感じています。

私たちとしては、大府市とともに

歩いて様々な大人たちと接することで、これから社会に出る世代に多様な視点や考え方を少しでも伝えられたらと意識しましたが、特に、地域にとって若者が求められている存在であることも、合わせて感じてもらえたのではないかと思います。

正副議長はじめ、温かく見守っていただいた他会派の議員の皆さんや議会事務局各位、また、インターン活動へのご協力を快く引き受けてくださった地域の方々、行政関係者の皆さまにも深く感謝申し上げます。

大府市の30年後の未来のため、課題や疑問点を整理して、みんなで考えました。

グループワークで課題を出し合う

残念ながら、全国大会には勝ち進めず。でも、とても堂々とした発表でした。

「未来自治体」愛知大会プレゼン

現場をとにかくたくさん歩き、地域の方々に様々なお話を伺いました。

フィールドワークで道路の安全確認

インターン生から“3つの質問”。社会人の先輩として、どれも丁寧に、優しく答えてくれました。

西尾市の若手市長 中村健さんと懇談

本会議場で議長と



誰もが安心して、安全に暮らしていける 大府市をめざして

3月定例会 一般質問 たかばとくこ

聞こえない、聞こえづらい 人の不便を解消するために

消防車や救急車は緊急走行中には“サイレン+回転灯”、火災予防啓発や地域巡回の際は“サイレンなし+回転灯”…聞こえない人や、聞こえにくい人にとっては目で見える情報が頼りとなるため、どちらなのか見分けが付きません。音とワンセットになっているものとして、住宅用火災警報器もあります。眩しい光と振動などで知らせる製品もありますが、十分に周知されているでしょうか。聞こえない、聞こえにくい人には、

病気や事故などによる中途失聴だけでなく、高齢によって耳が遠くなる場合もあることから、「誰の身にも起こり得ること」なのです。

消防からの答弁では、「緊急走行の際、車の挙動で急いでいることを伝える工夫をしている」「音を補う火災警報器には、障がいがある人への補助制度がある」としたうえで、「改めて車の聴覚障がい者ステッカーを職員に周知した」「スマートフォンが警報音を感知して、振動や文字で知らせるアプリ『サウンドディスプレイ』もあるので、周知していきたい」との答弁がありました。最近では、スマホでもできるよう

になったものが増えた一方、電話でなければならないことも多くあります。聴覚障がい者や、声を出せないなどの発話困難の人が手話や文字で言いたいことを伝え、オペレーターがその内容を電話の相手に伝える「電話リレーサービス」が昨年7月に始まりましたが、「本人からではない電話は受けられない」と断られるケースがあるなど、理解が広がっていない課題があります。このような仕組みがあることを社会に広く知ってもらう必要があるとの指摘に対しては、周知を進めるために当事者と話し合っていく旨の答弁がありました。

議会では、これまで何度も質問が出されており、「期待感が高まるが、目に見える実感がない」「大規模な開発はさておき、身近な憩いの空間として『まちなかウォークブル』は興味深い」など、様々なお声をいただいています。

～取組が市民に伝わる工夫を～

ところが、予算資料には計画策定の会議予定が書かれているものの、予算額は前年度とほぼ同じ。そこで、「令和4年度末にまちづくり計画を公表する予定とあるが、検討会議に参加していない市民にも中心市街地活性化の取組が伝わり、意識できる

ようにしていく必要があるのでは」と、市の考えを質しました。担当課は答弁で「市民なしにはできない。現時点で不確定要素が多く、お伝えできる状況にはない」としながらも、「ある程度、固まった時点でお知らせしていく。パブリックコメントも実施する予定である」との考えを示しました。

このほかに、のべ9事業（計12項目）で、プチ起業、農業振興、観光、景観等の発展的視点のものや、耐震対策、消防といった市民の安心安全のための視点のものなど、所管事務事業を多角的に取り上げました。

建設産業委員会

令和4年度 予算審査 Pick up

◆中心市街地整備事業

施政方針では「子育て施策・教育環境のさらなる充実」など、令和4年度の重点的施策として6つの柱が提示されました。そのうちのひとつが「市の玄関口である駅周辺・中心市街地の整備」です。

たかばとくこも、「中心市街地整備は現在の市民の満足度だけでなく、市の付加価値を高めるために重要」と考え、持続可能で発展的な大府市の未来のために注視してきました。

不特定多数の方々が訪れる市の公共施設を より人にやさしい場所にするために

3月定例会 一般質問 宮下しんご



ユニバーサルデザインは 東京2020でさらに進化

市役所や図書館など、不特定多数の方々の利用に供される公共施設における点字ブロックおよび点字表記の整備、また、音声案内等への取組については、令和元年9月定例会の一般質問で取り上げましたが、当時の建設部長答弁は「ユニバーサルデザイン等の考え方もその段階で完璧ということではない」、「使い勝手や、使っているうちの状況などで直していく必要がある」というものでした。その後、東京2020を契機として、

我が国におけるユニバーサルデザイン、バリアフリーの施策がさらなる推進を見たこと、本市でも「障がいのある人のコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」が成立したことなどから、こうした状況の変化を踏まえつつ、『手で見える地図（触知案内図）』の導入や、補助犬も多機能トイレを利用可能であることを周知し、理解促進を図る『ほじょ犬マーク』などと合わせて、市役所等の公共施設を“より人にやさしい場所”としていく施策について、市としての考えを改めて問いました。点字ブロックと点字表記に関しては、残念ながら従前同様の答弁内容

にとどまり、『手で見える地図』導入も「予定はない」（都市整備部長）と後ろ向きな考えが示された一方、市役所をはじめとする公共施設への『ほじょ犬マーク』掲示については、『補助犬の多機能トイレ利用への理解が「十分に深まっていない」（福祉部長）として、「自立支援協議会等のご意見をいただき、議論を進めていきたい」（同）との前向きな回答が得られました。

最後に意見として、「公共施設でやれていないことが、まちづくりで行えるのか？」との視点を提起しました。

総務委員会

令和4年度 予算審査 Pick up

◆市職員の「通年採用」実施

国全体の人口減少に伴い、今後も若年層を中心に人材獲得競争のさらなる激化が予想されることへの対処として、本市でも採用選考の間口を秋冬以降にも広げるよう、令和3年6月定例会の一般質問で求めていましたが、令和4年度から「通年採用」が実施されることとなり、その手法等の内容を質疑で確認しました。

年間スケジュール前半の試験での内定辞退、あるいは入庁後短期間で

の退職者がした場合などにおいては、その分の採用枠を後半の日程に追加するといった柔軟な対応も必要である旨、指摘しました。

◆大府市の新しいブランドロゴ

大府市の新たなロゴマークとなる「ビジュアルプロモーションマーク」について、どのような運用となるのかを確認するため、担当課に考えを尋ねました。

答弁では、市の発行物や事業において統一的使用していくことで、イメージアップと認知度の向上を図っていくとのことであり、これに対し、記者会見用バックパネル更新

や、市公式ウェブサイトで公開しているバーチャル背景画像への追加等、市内外に広く浸透させるための活用方法を提起したところ、再答弁で前向きな姿勢が示されました。

◆「コミュニケーションボード」作成

日本語での意思疎通が困難な外国人のために、情報伝達の新たな手段として「コミュニケーションボード」が作成されます。

市役所窓口用については、公民館や保健センターなど様々な施設バージョンへの展開、店舗用についても、PDFデータのウェブ公開といった対応を再質問で求めました。